

市民アンケート調査報告書(速報版)

前橋市市民アンケート調査結果（速報）

■調査概要

1. 調査の実施方法

調査対象者	市内在住の15歳以上：3,000人
調査方法	郵送配布、郵送回収（Web回答也可）
調査時期	令和6年10月23日（水）～令和6年11月5日（火）

2. 調査の実施結果

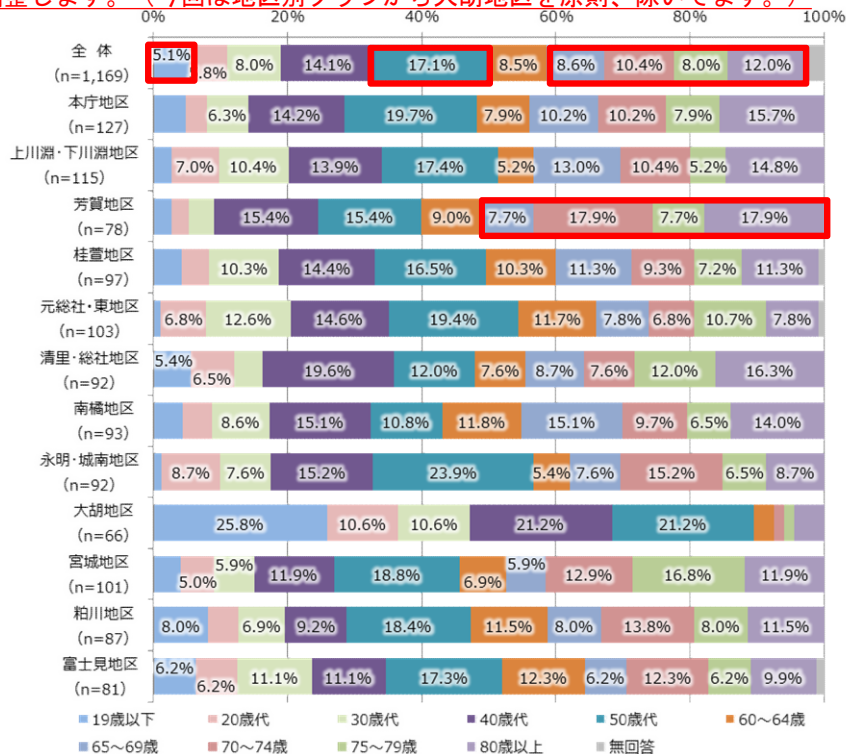
配布枚数	3,000枚
回収数	1,169票
回収率	39.0%

■結果概要

1. 回答者の属性

①年齢

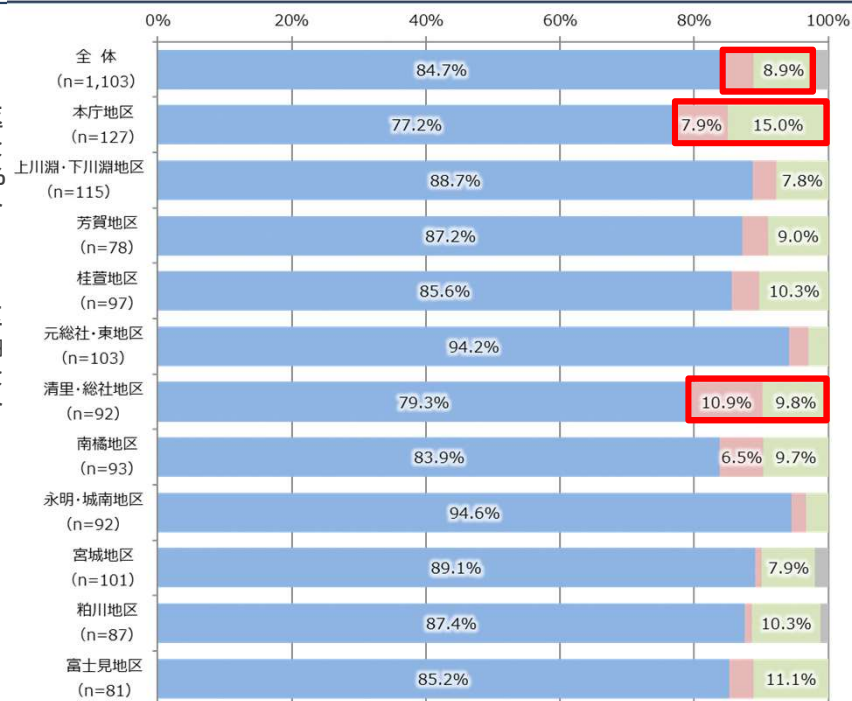
・回答者の年齢は、50代が17.1%と最も高く、65歳以上の高齢者は39.0%、10代は5.1%となっています。高齢者の割合は芳賀地区が他地区に比べて高い状況です。※大胡地区について、調査方法に誤りあり、年齢に偏りがあるため、後日調整します。（今回は地区別グラフから大胡地区を原則、除いてます。）



②運転免許の有無

・運転免許の有無では、「返納し」「もともと持っていない（失効等を含む）」が15%以下となっており、高い割合で運転免許を所持しています。

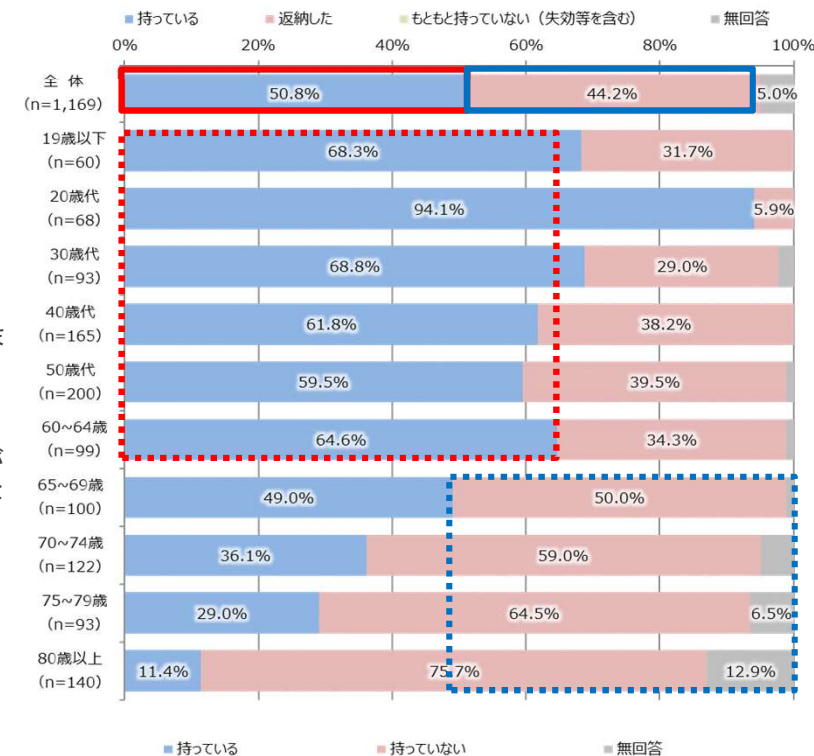
・地区別に見ると、本庁地区や清里・総社地区は、「返納した」「もともと持っていない（失効等を含む）」の割合が他の地区と比較して高くなっています。



③交通系ICカードの所有

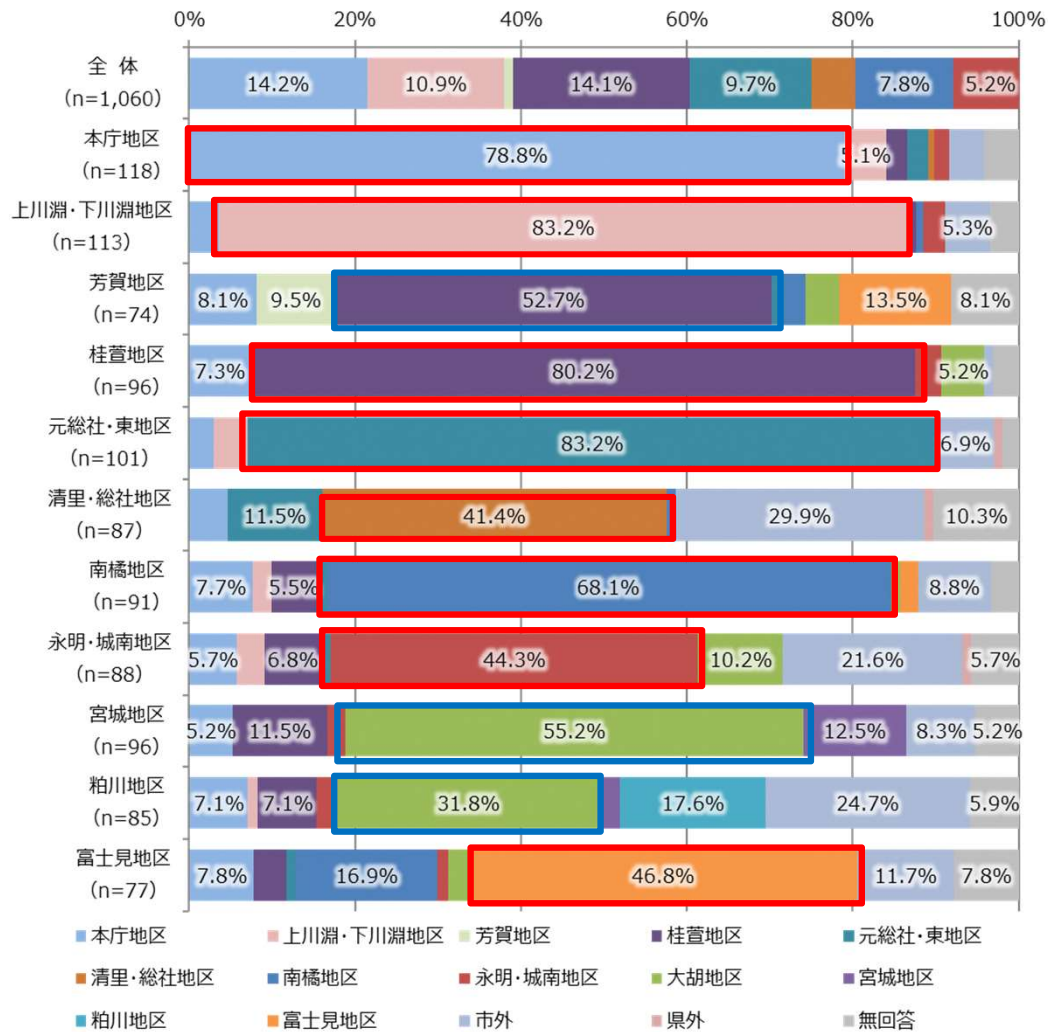
・ICカードの所有状況は、「持っている」が50.8%、「持っていない」が44.2%となっています。

・年齢別にみると、20歳代は、9割以上が交通系ICカードを所有し、64歳までの層までは概ね6割以上が所有していますが、65歳以上でみると、半数以上は交通系ICカードを所有しておらず、年齢が上がるほど所有する人は少なくなっています。



2. 買物に関する移動状況

<買物先>

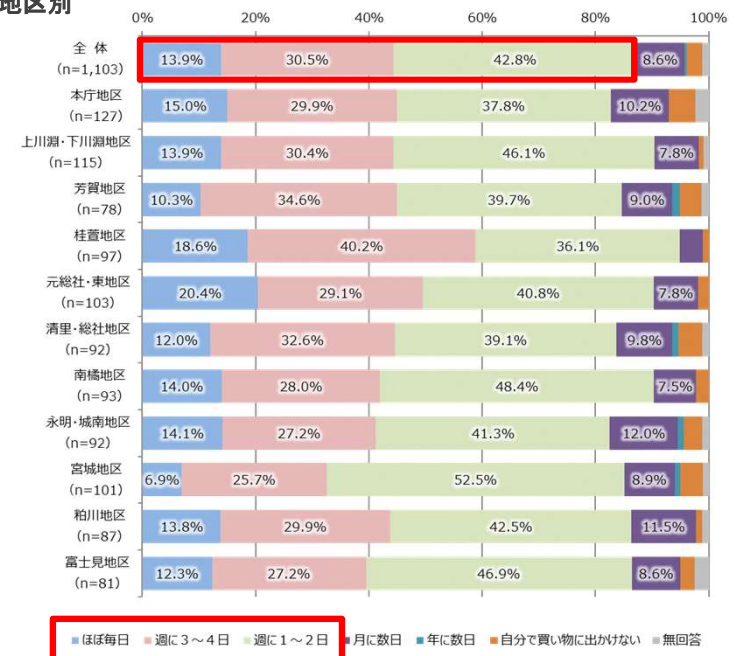


●芳賀地区、宮城地区、粕川地区以外は、当該地区内で買い物を済ませることが多い。各地区にスーパー等が存在しているためと想定される。

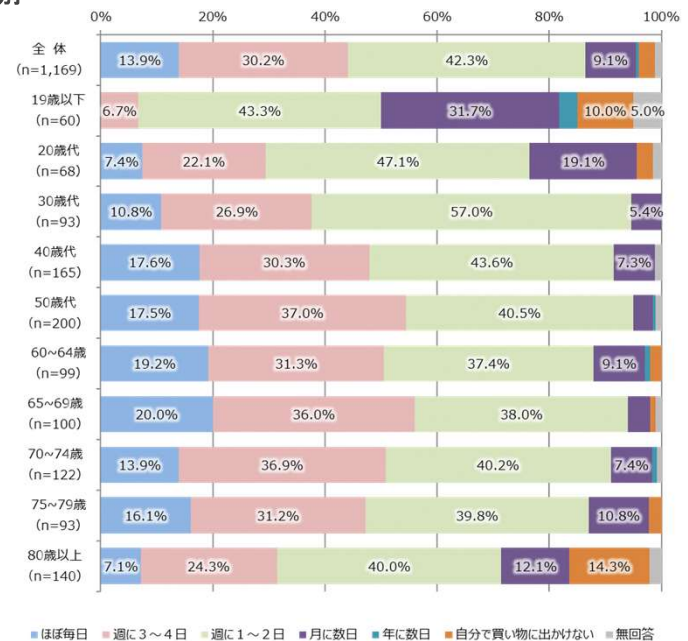
●買い物頻度は地区に大きな差はなく、週に1～2回、もしくはそれ以上が8割を占める。年齢別では、若い人ほど頻度は減少

<買物頻度>

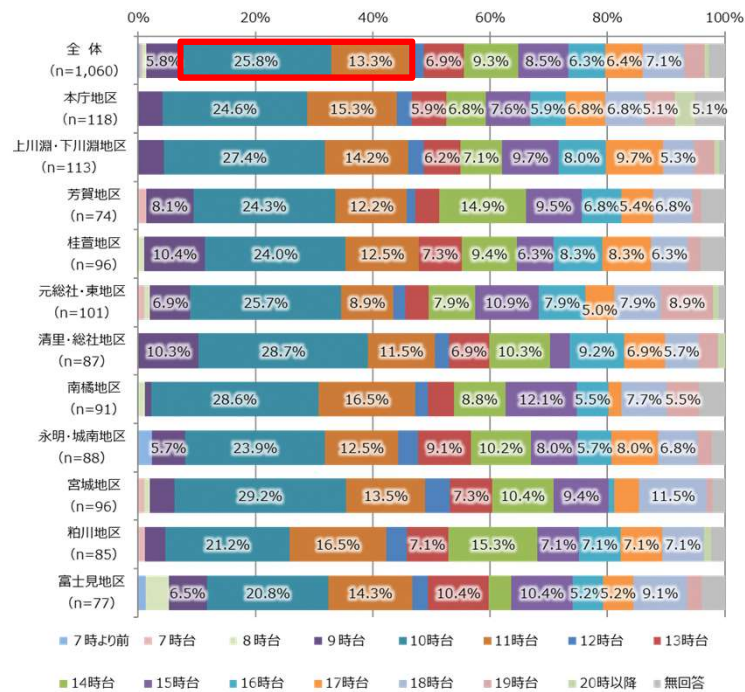
地区別



年齢別



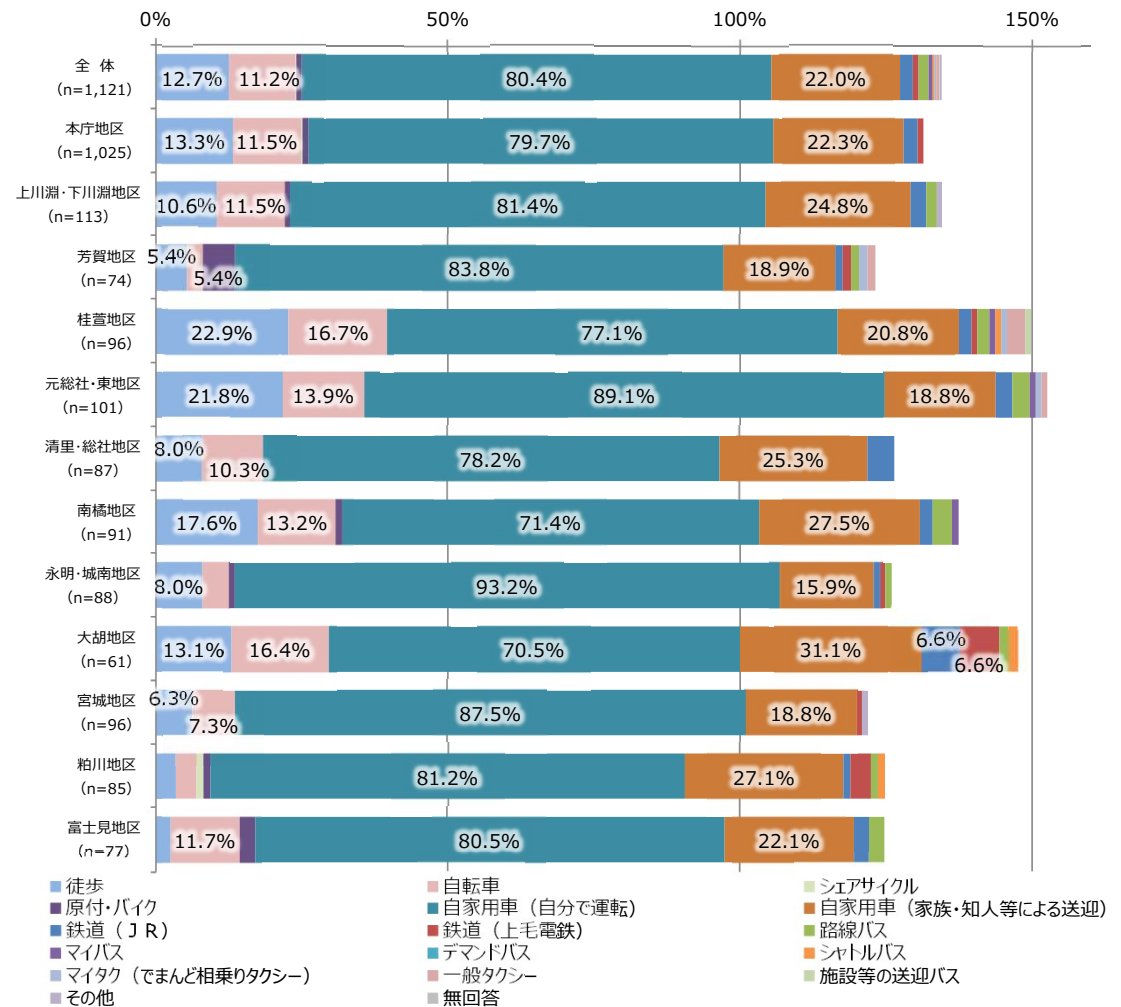
<買物に出かける時間>



<買物から帰る時間>



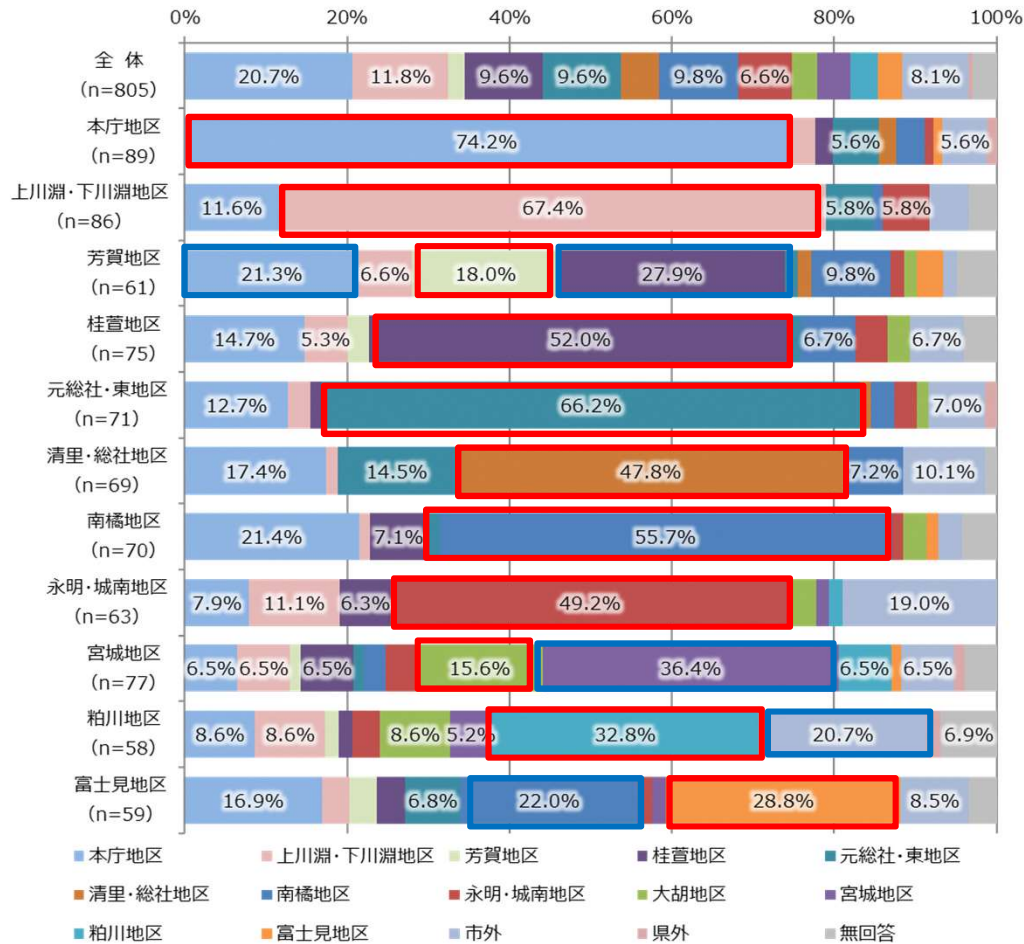
<買い物時の交通手段>



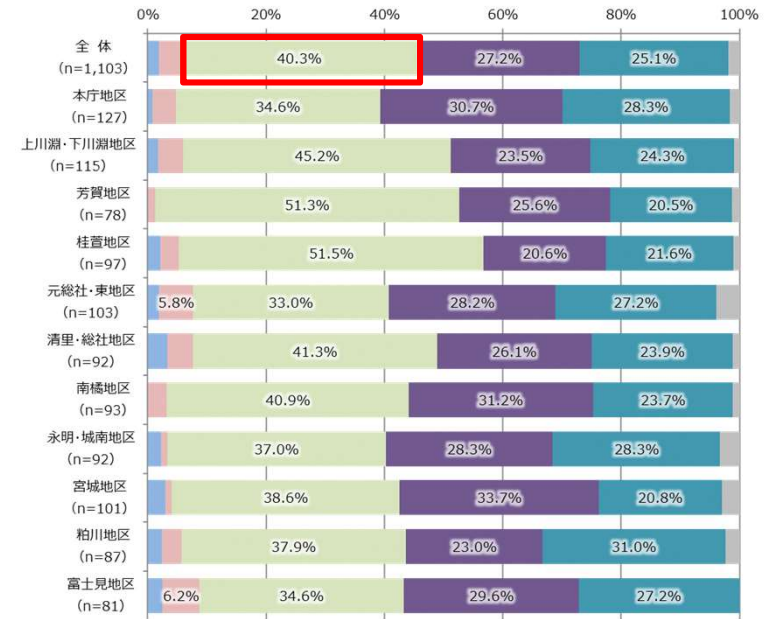
- 時間帯は10時台～12時台の移動が多く、各地区で共通している。
 - 買い物時の交通手段は、徒歩、自転車、自家用車がほとんどであり、数%ではあるが、大胡、粕川地区では上毛電鉄、バスが運行している地区では路線バスが使われている。
- <公共交通の課題>
- 移動ニーズが高い地区と時間帯に対して対応を検討していくことが必要
- デマンドバス運行区域では午前中に予約が取りづらいという状況があることも留意

3. 通院に関する移動状況

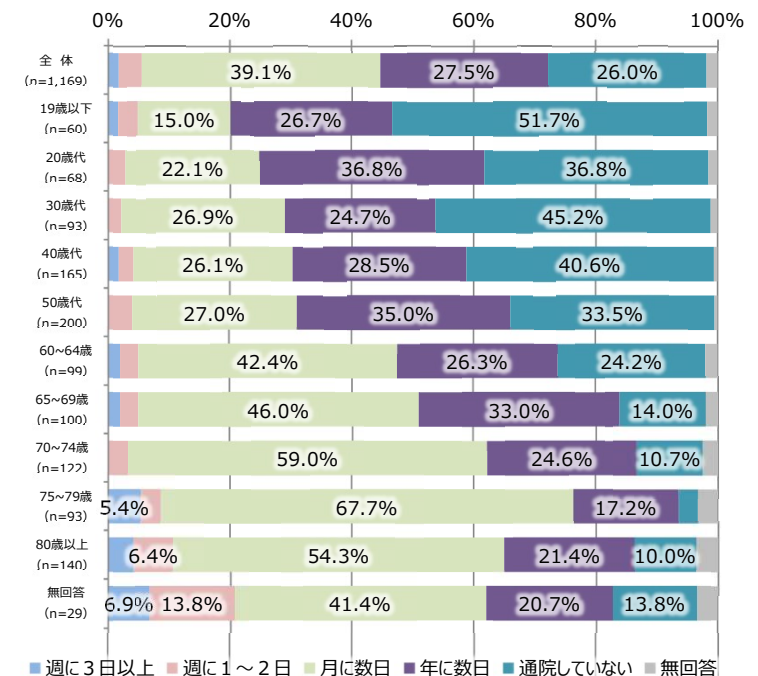
<通院先>



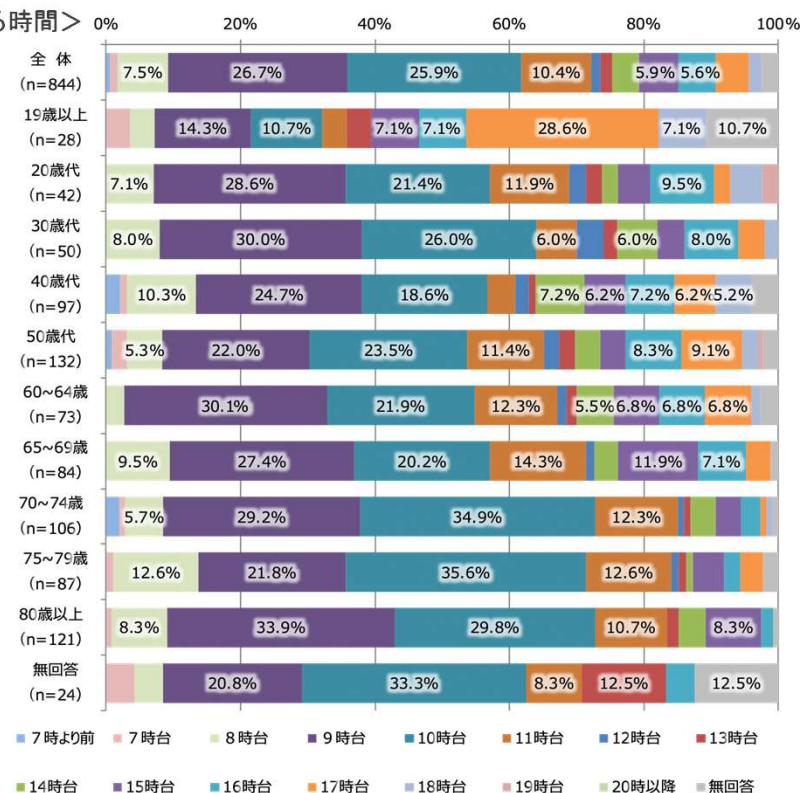
<通院頻度>



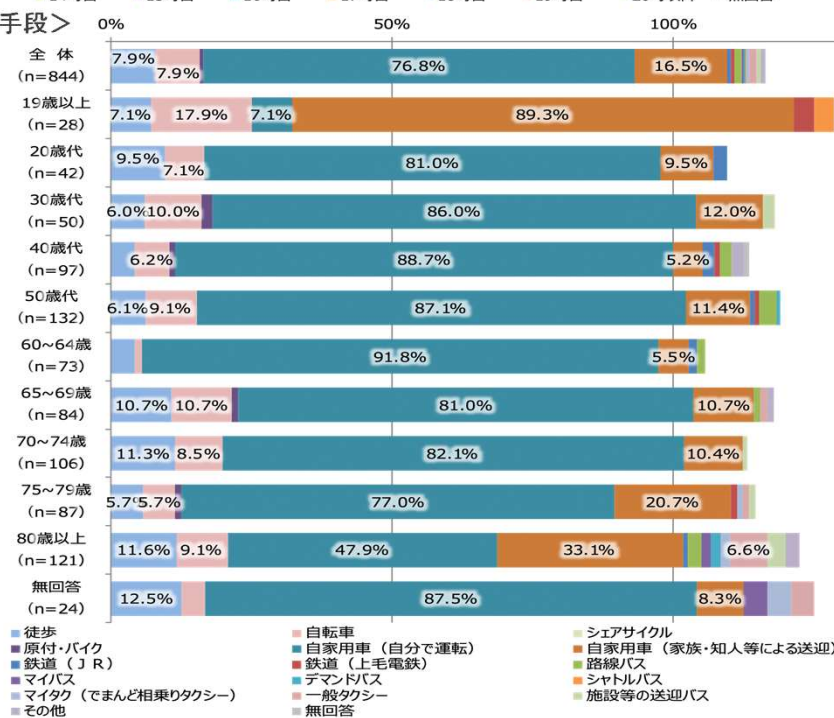
- 買い物同様に居住地と同一地区内での通院が多いが、地区外移動も一定数見られる。買物と比較すると、市外への移動が少ない。
- 医療機関が少ない芳賀地区、宮城地区、粕川地区は近隣地区への移動も多い。
- 通院の頻度は買い物に比べて多くなく、高齢者であっても月に数日が多い。



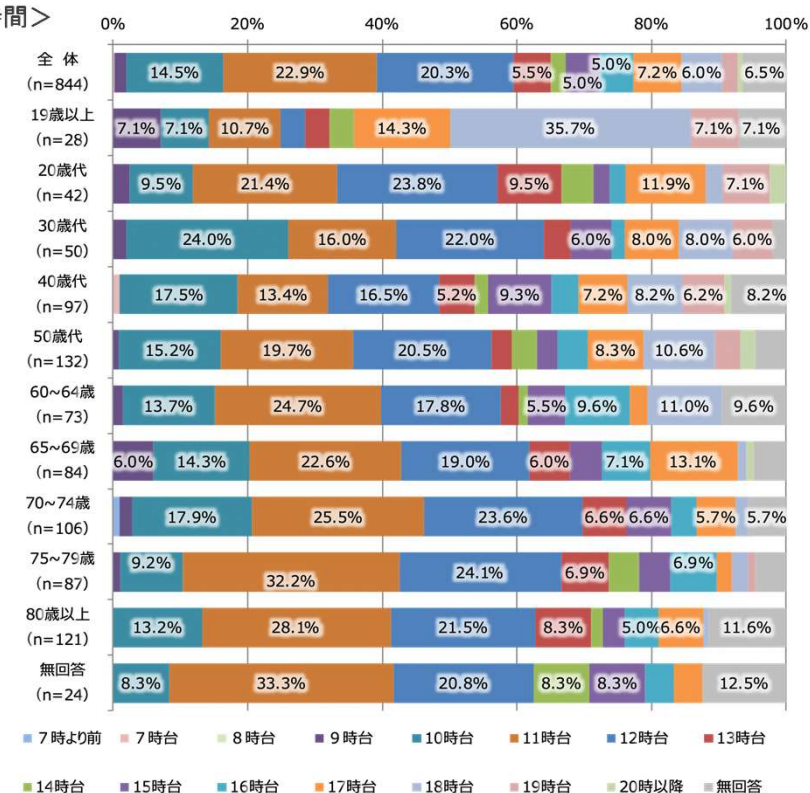
＜通院に出かける時間＞



＜通院時の交通手段＞



＜通院から帰る時間＞



●時間帯は9時台～12時台の移動が多く、特に70歳以上になるとその割合が大きくなる。買い物と異なり、帰る時間帯も12時までが半数を占める。

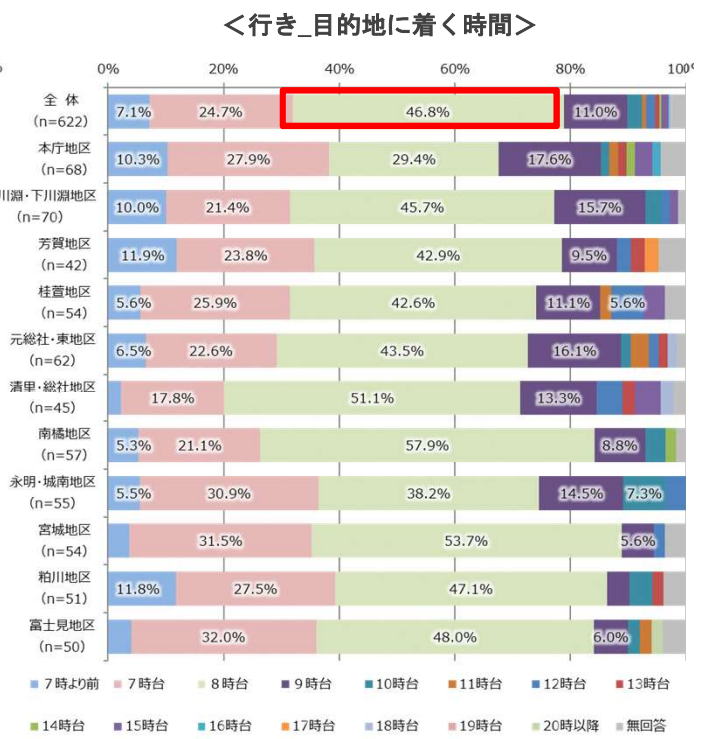
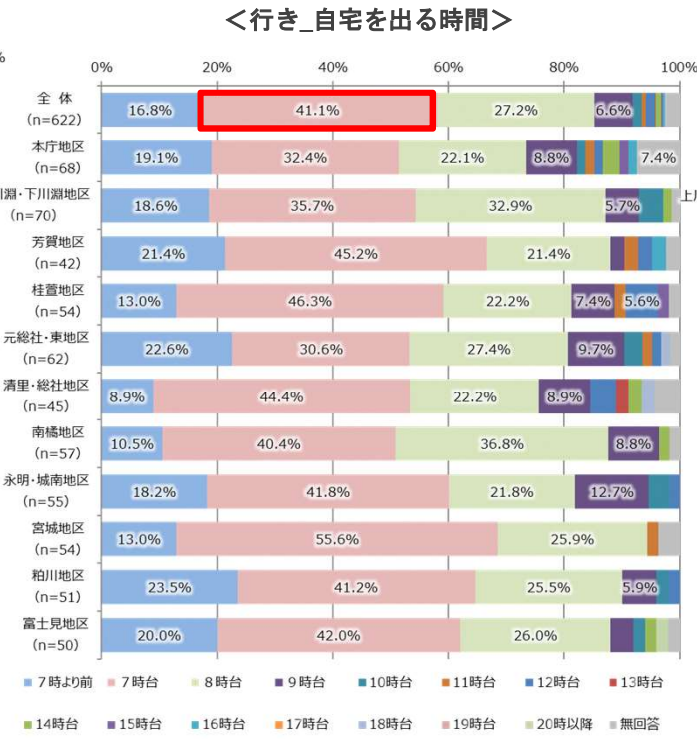
●買い物同様ほとんどが自家用車(送迎を含む)での移動である。

＜公共交通の課題＞

移動ニーズが高い地区と時間帯に対して対応を検討していくことが必要
デマンドバス運行区域では午前中に予約が取りづらいという状況があることも留意

* よく行く医療機関については集計中

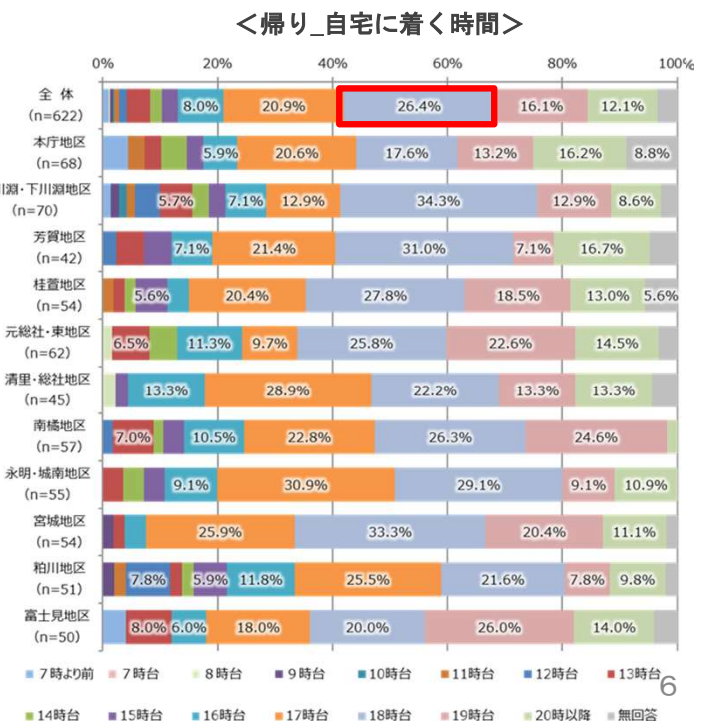
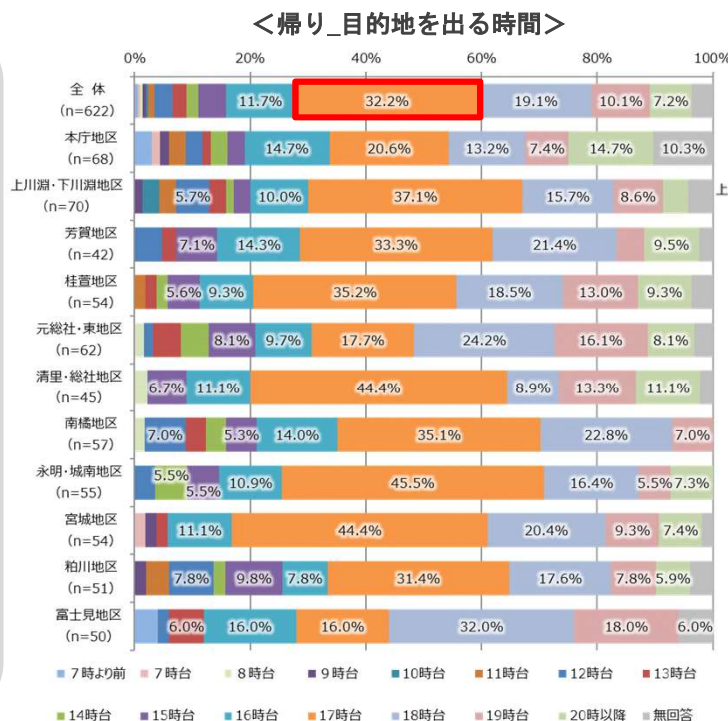
4. 通勤・通学に関する移動状況



- 市内は、本庁地区への移動が多いが、市外への移動が多く全ての地区から市外への移動が見られる。
- 行きの時間帯は、自宅を出る時間は7時台、目的地に着く時間は8時台が多い。
- 帰りの時間帯は、目的地を出る時間は17時台、自宅に着く時間帯は18時台が多く、ほとんどの移動は、20時台までである。

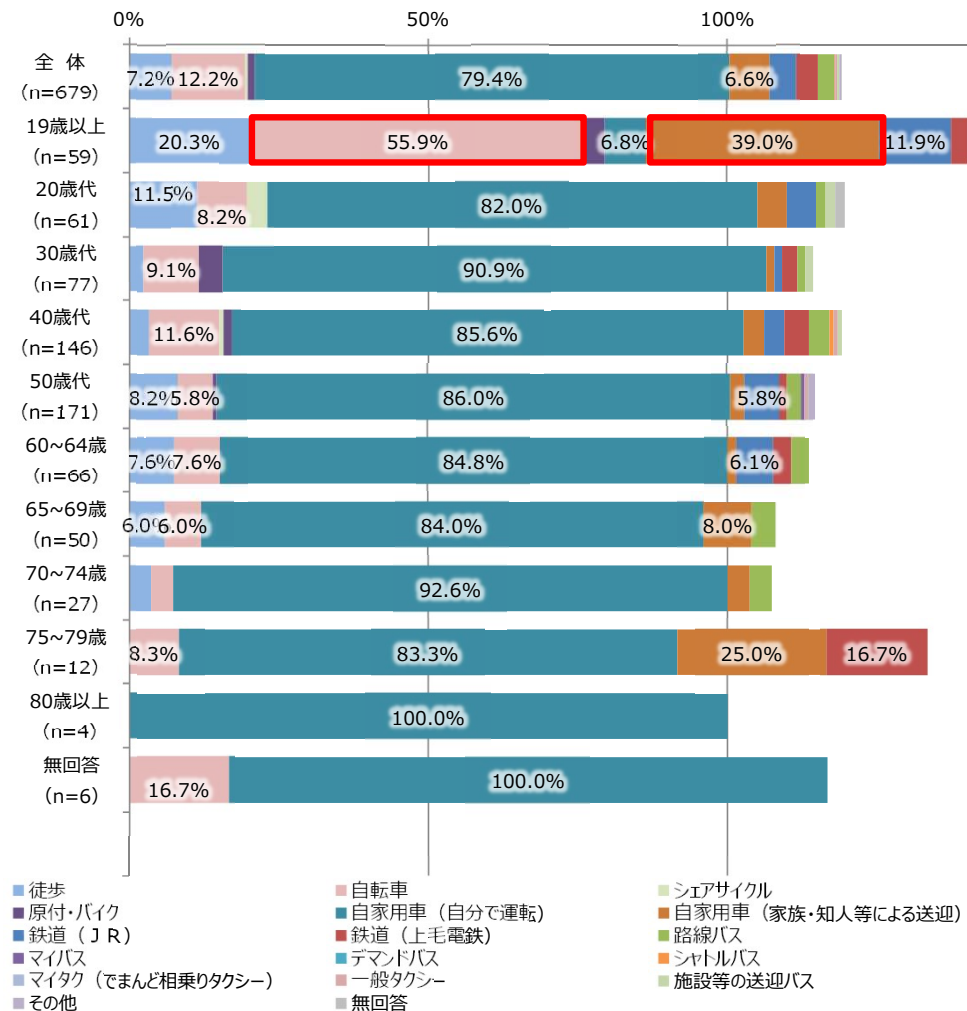
＜公共交通の課題＞

- 市内の本庁地区及び市外へ移動ニーズが高い状況である。
- また地区内移動の移動ニーズも見られる。
- 行きは7～8時台、帰りは17～18時台の移動ニーズが高い状況である。
- 本庁地区など市内への移動ニーズに対応しつつ、市外への移動ニーズに対して対応を検討していくことが必要

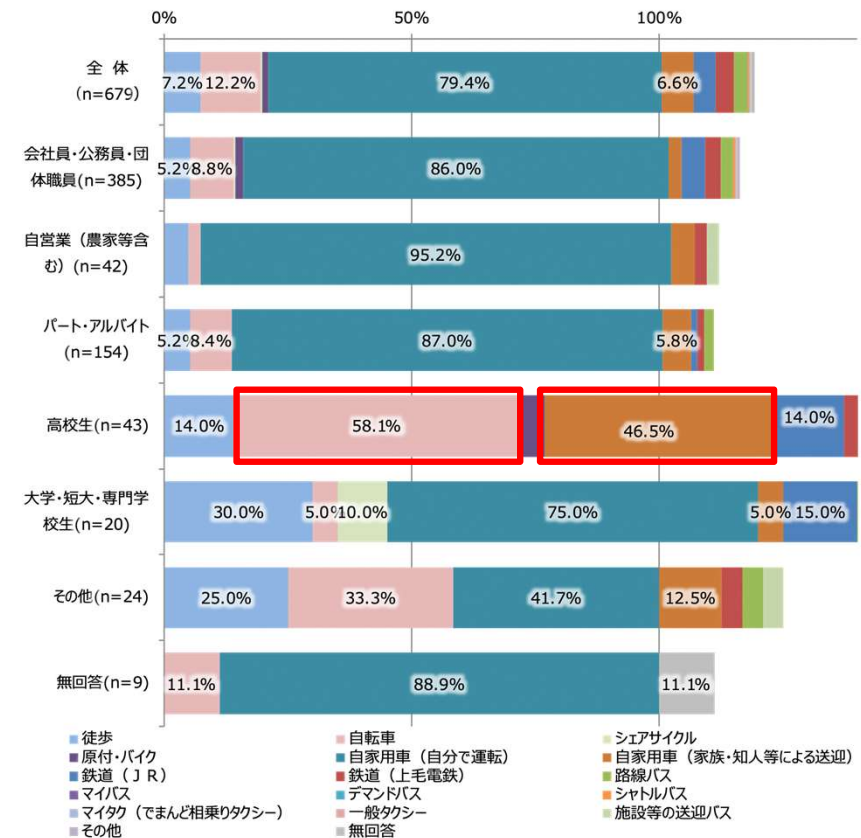


<通勤・通学時の交通手段>

年齢別



職業別



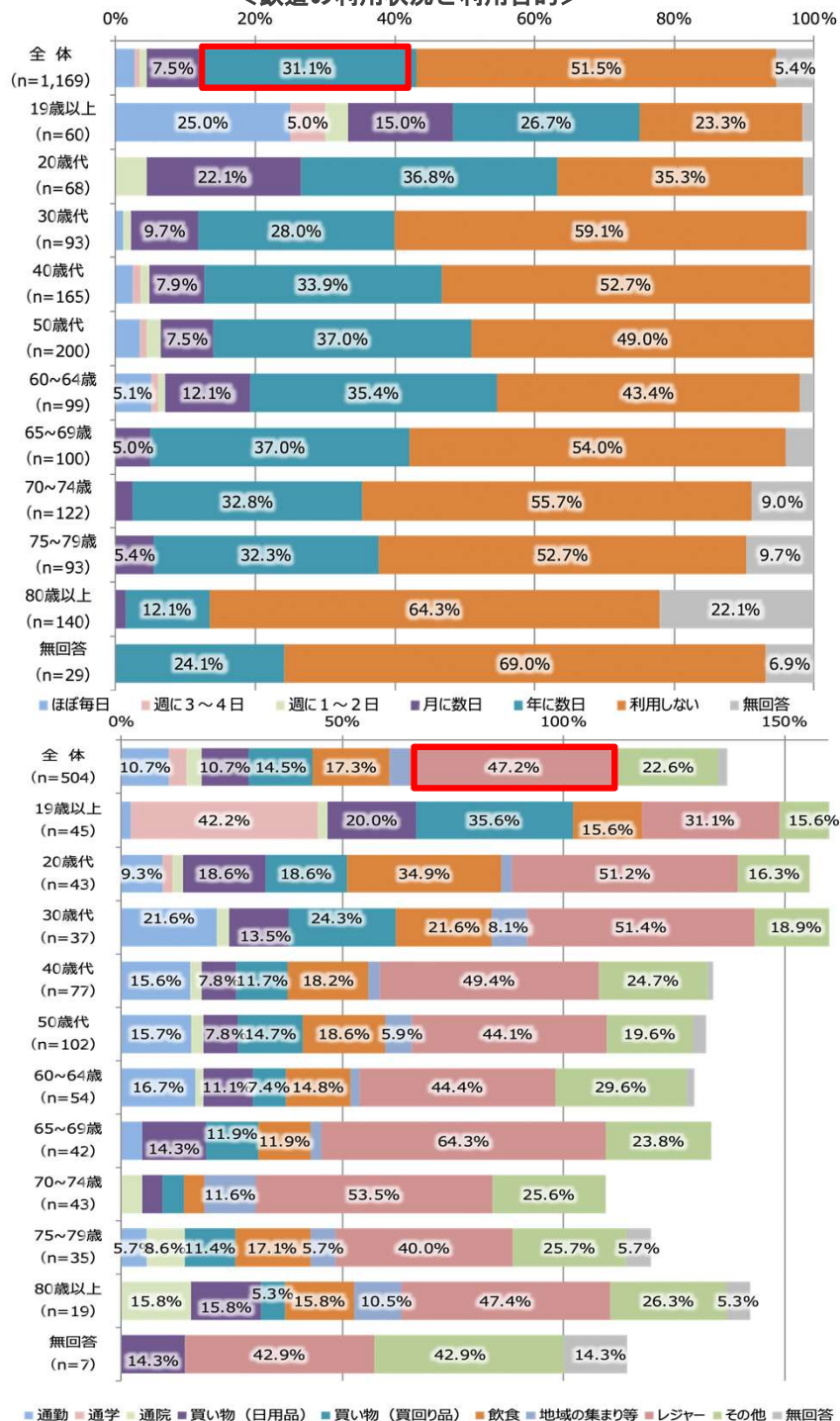
●通勤・通学時の移動手段は自家用車の利用が多い。19歳以下の移動手段は自転車及び送迎が多い。高校生、大学生世代は鉄道を利用しており、駅までの送迎も多くなっていることが想定できる。

<公共交通の課題>

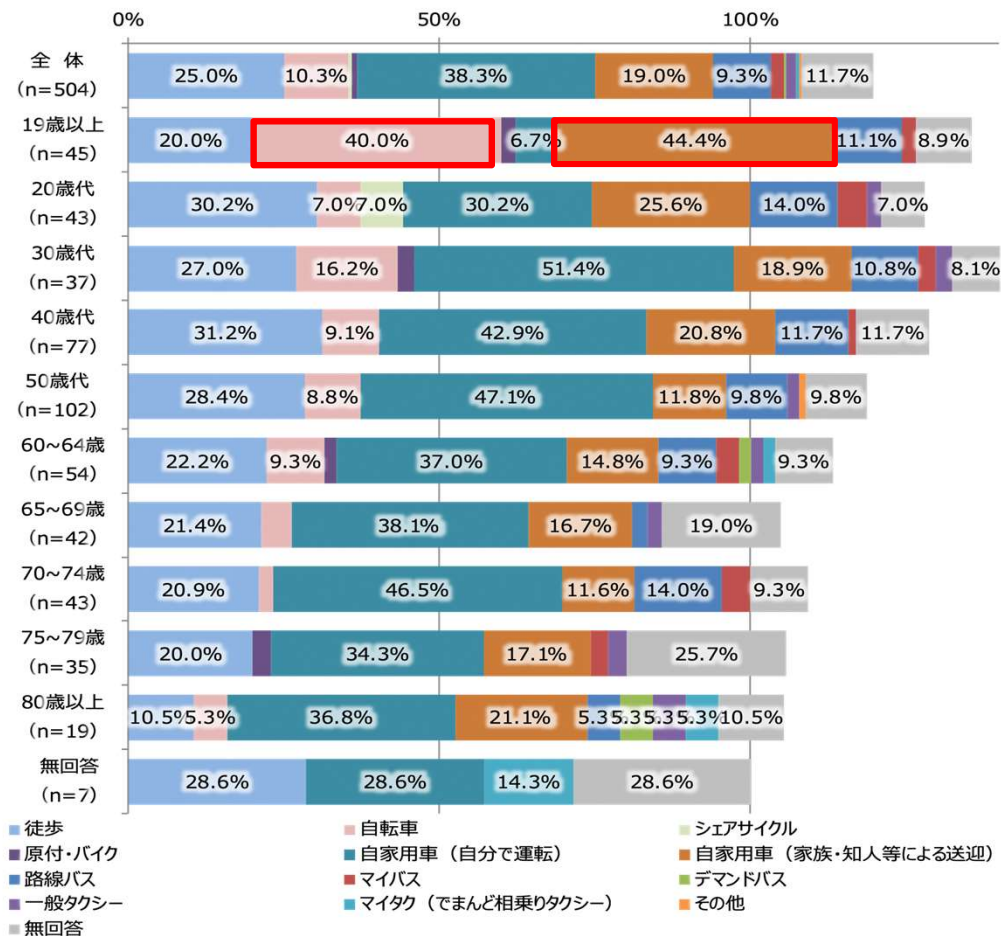
- 市内の本庁地区及び市外へ移動ニーズが高い状況であるが、地区内移動の移動ニーズも見られる。
- 行きは7～8時台、帰りは17～18時台の移動ニーズが高い状況であり、これらの移動ニーズに対応しつつ、市外への移動ニーズに対して対応を検討していくことが必要
- 高校生の公共交通利用を促すような取り組みが必要である。

5. 公共交通の利用状況

＜鉄道の利用状況と利用目的＞



＜自宅から鉄道駅までの移動手段＞

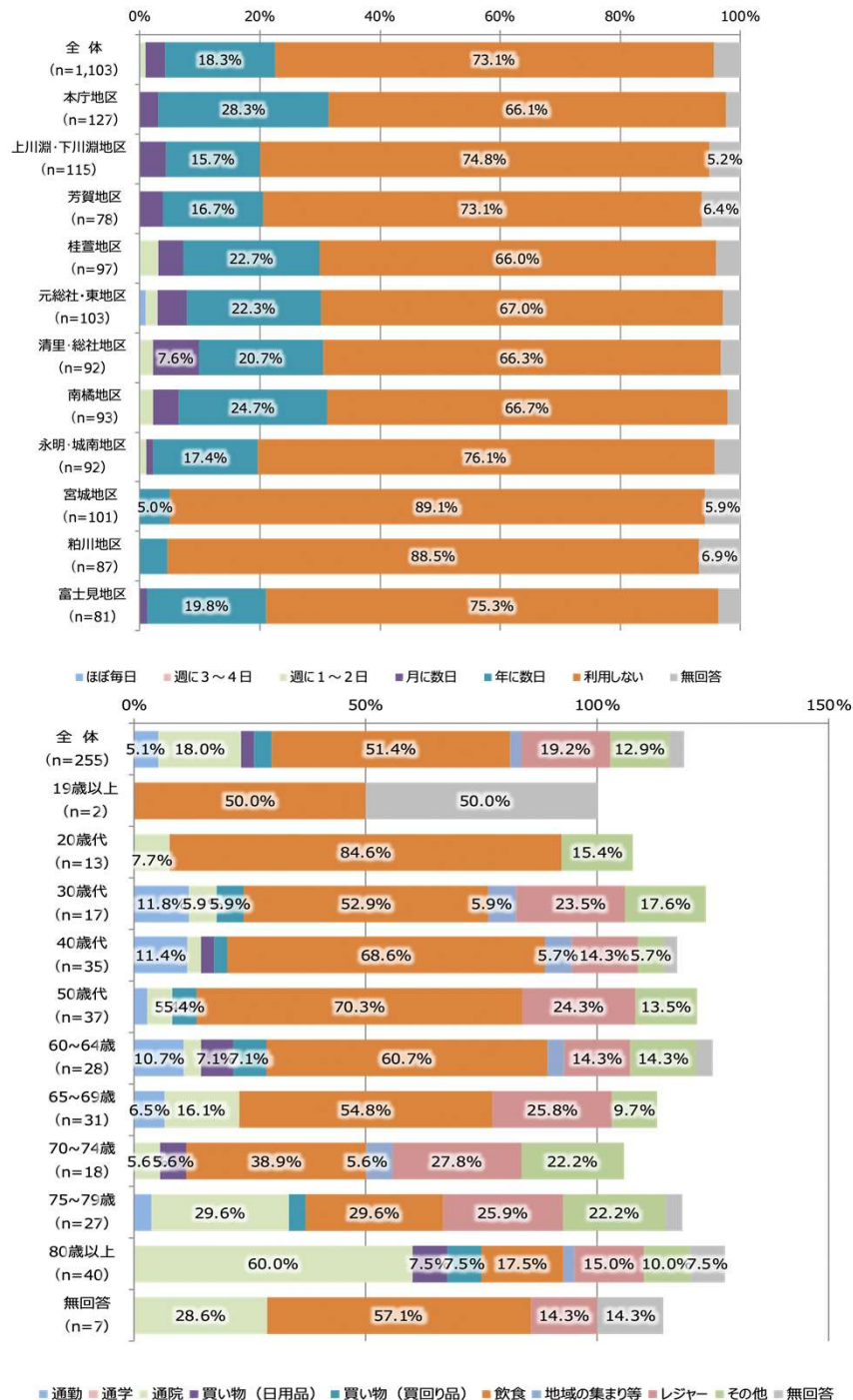


- 鉄道利用は若年層で多いが、年に数日程度の利用が31.1%となっている。
- 利用目的はレジャーが47.2%と他の目的に比べて高くなっている。
- その他の利用目的として、通勤と買物が10.7%、買物（買い回り品）が14.5%となっている。

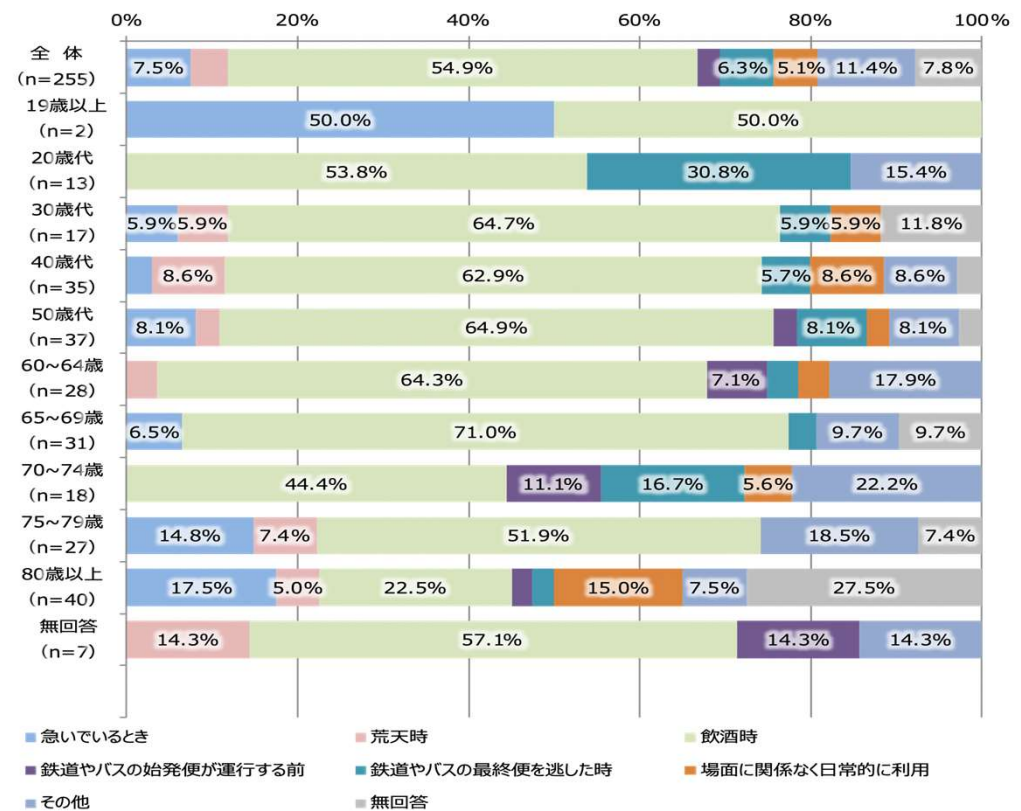
- 自宅から鉄道駅への移動手段は自家用車が多くなっており、駅周辺の駐車場でパークアンドライドにより利用していることが伺える。バス利用は10%ほどである。
- 19歳以下では、通学手段の結果の通り自転車および送迎が多くなっている。

5. 公共交通の利用状況

<タクシーの利用状況と利用目的>



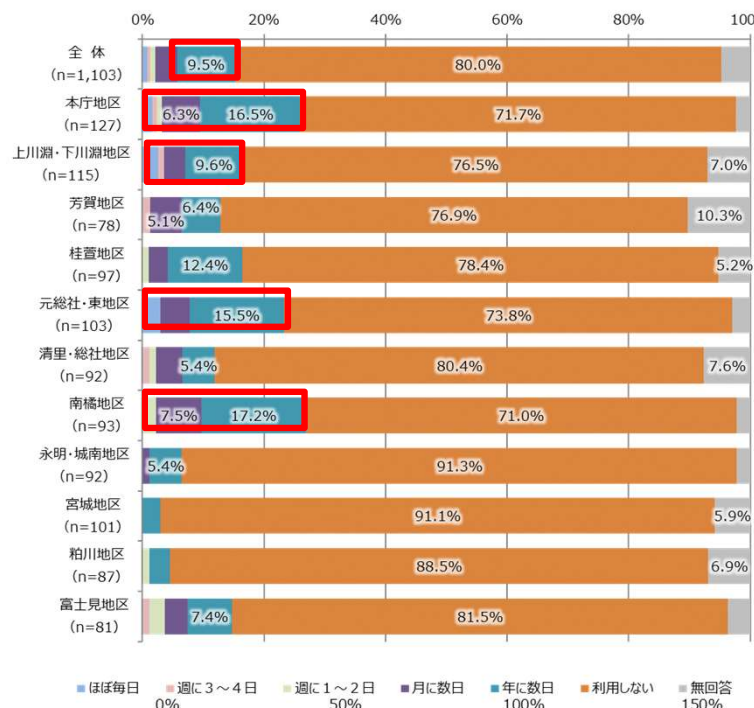
<タクシーの利用シーン>



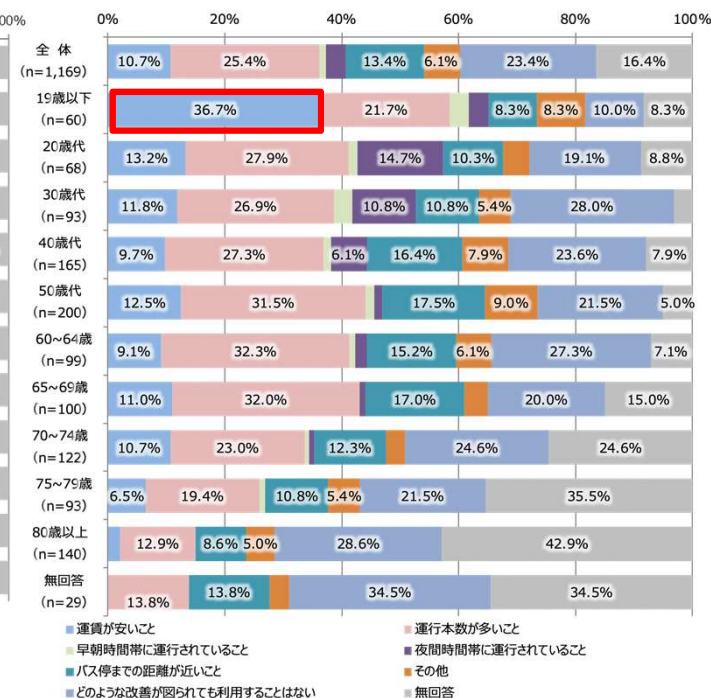
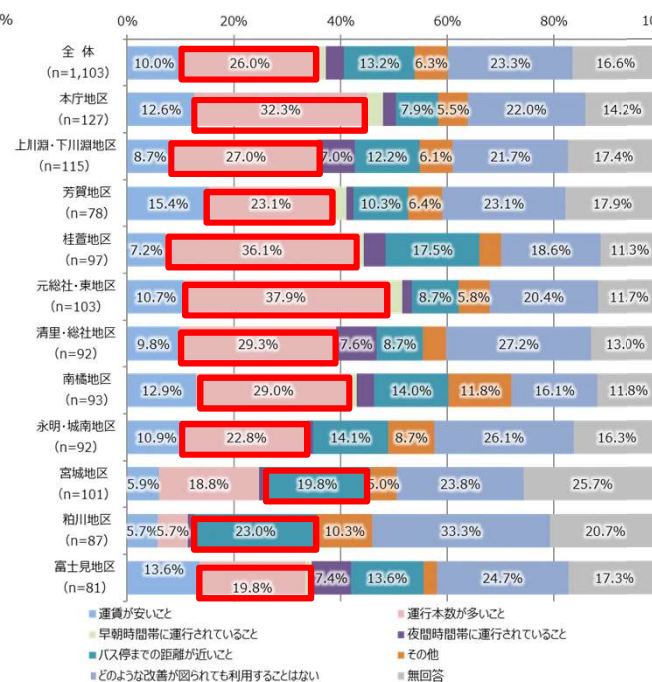
- 年に数日程度の利用が18.3%となっている。
- タクシーの待機場所から遠い宮城地区、粕川地区では利用が少なくなっている。
- 利用目的は飲食が51.4%と他の目的に比べて高くなっている。
- その他の利用目的として、レジャーが19.2%、通院が18.0%となっている。
- 利用シーンとしては飲酒時が最も多い。回答数が少ないないが、20歳代、70歳~75歳代では、「鉄道・バスも最終便を逃した時」も回答がある。

6. 路線バスの利用状況と求めるサービス水準

<路線バスの利用状況と利用目的>



<路線バスに求める最も重視するサービス水準>



●南橘地区（前橋渋川線）、上川淵・下川淵地区（前橋玉村線）、元総社・東地区（川曲線・前橋高崎線）といった市街化区域が主要である地域で、比較的バスのサービス水準の高い地区ではある程度のバス利用がみられる。

●利用目的はレジャーが31.0%と他の目的に比べて高くなっている。

●その他の利用目的として、通勤が19.0%、買物（買い回り品）が14.3%となっている。

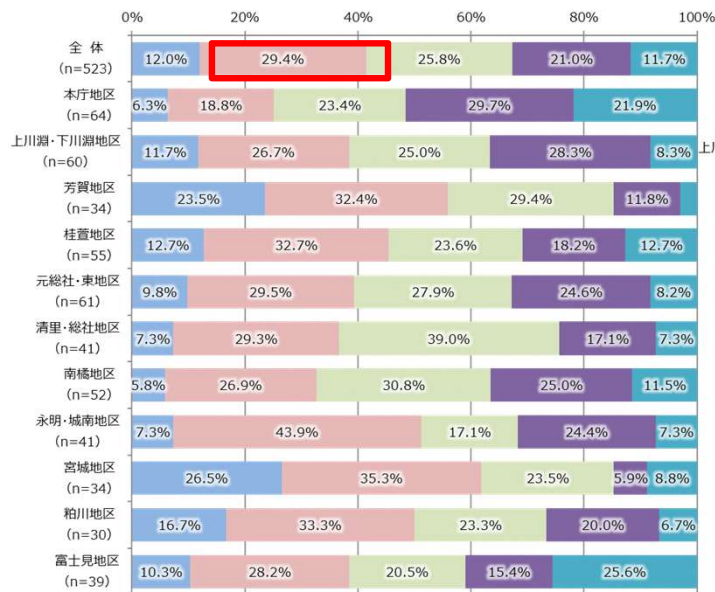
<路線バスに求める最も重視するサービス水準>

●全体的に運行本数を重視する地区が多いが、デマンドバスを運行する地区では、運賃やバス停までの距離を重視する地区が見られる。

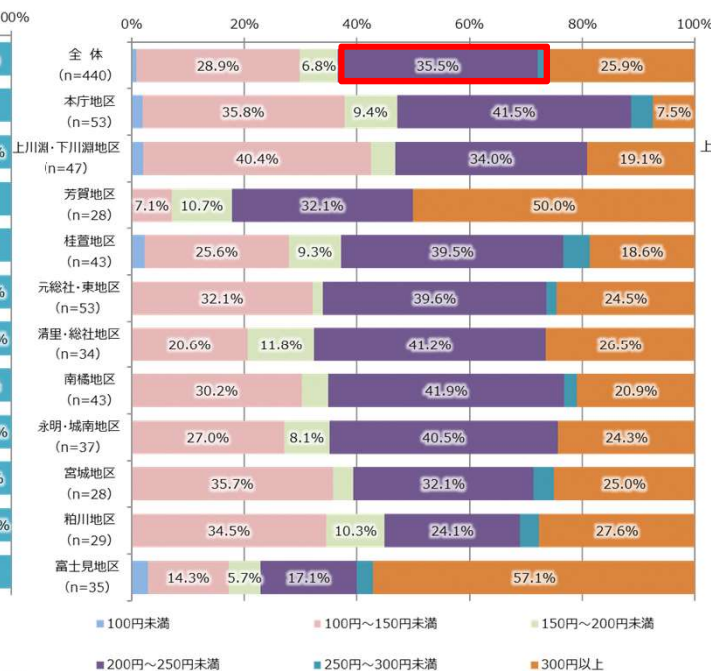
●19歳以下では、運賃が安いことを重視している。

6. 路線バスの利用状況と求めるサービス水準

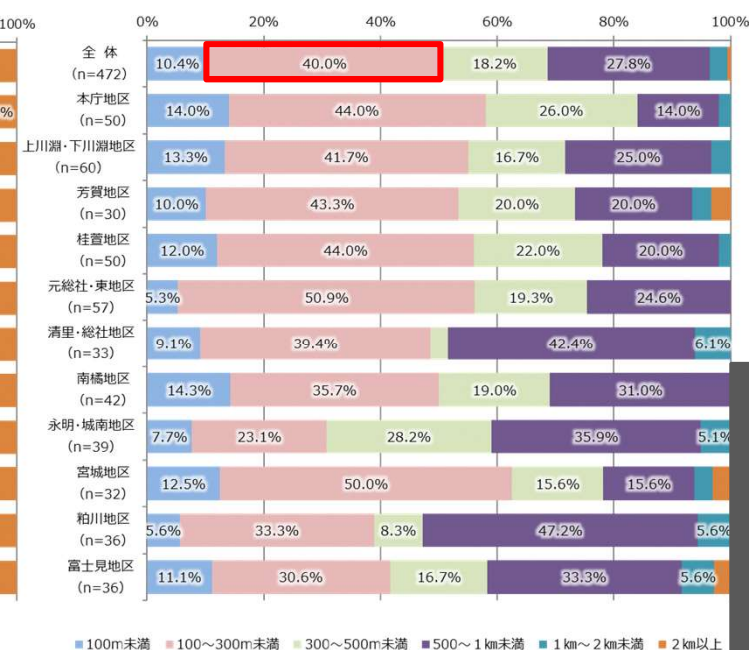
< 1時間あたりの運行本数に求めるサービス水準 >



< 1乗車あたりの運賃に求めるサービス水準 >



< バス停までの距離に求めるサービス水準 >

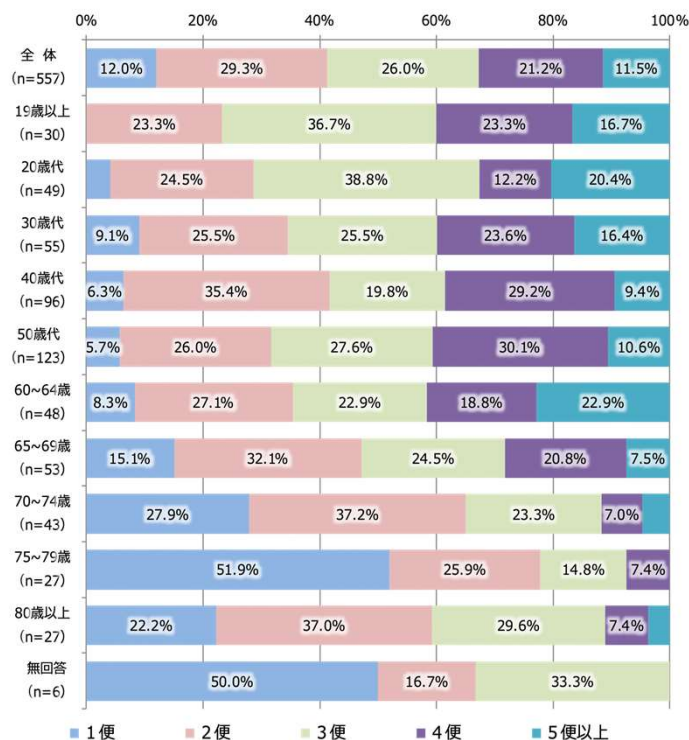


< 市民が求めるサービス水準 >

●運行本数は全体では1時間あたり2～4便が多くなっている。年齢別に見ると高齢の方は1時間に1便の割合が大きくなる。

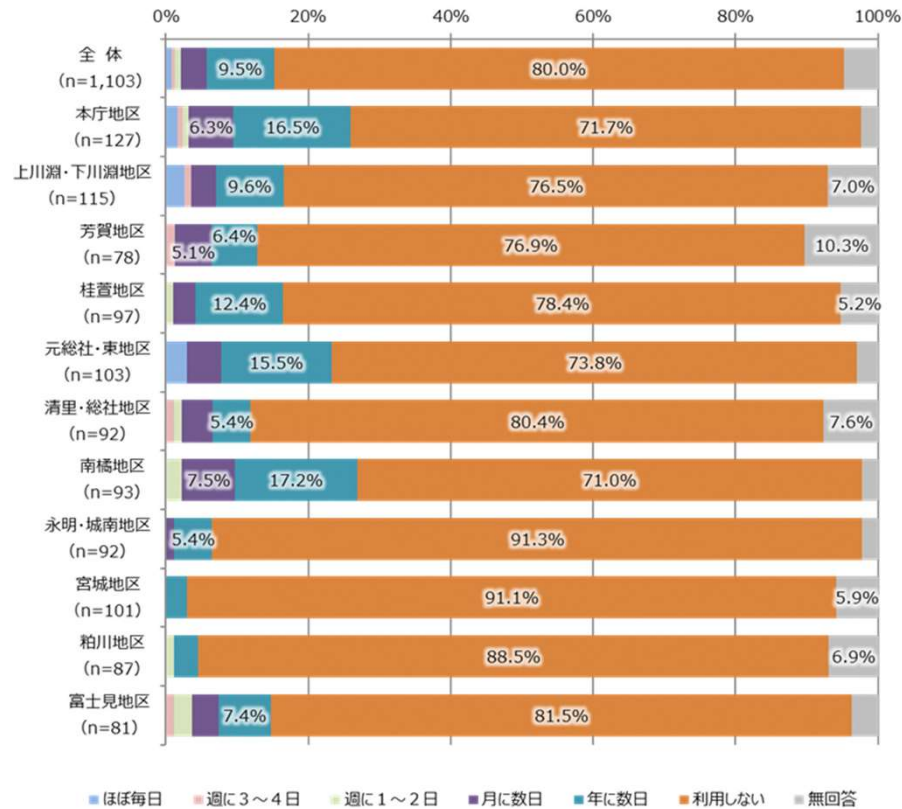
●運賃については、運賃は、全体では200～250円が多くなっており、地区別にみると、100～150円や300円以上が多い地区も見られる。

●バス停までの距離は、100～300m未満が多くなっており、地区別に見ると、500m～1kmの地区も見られる。

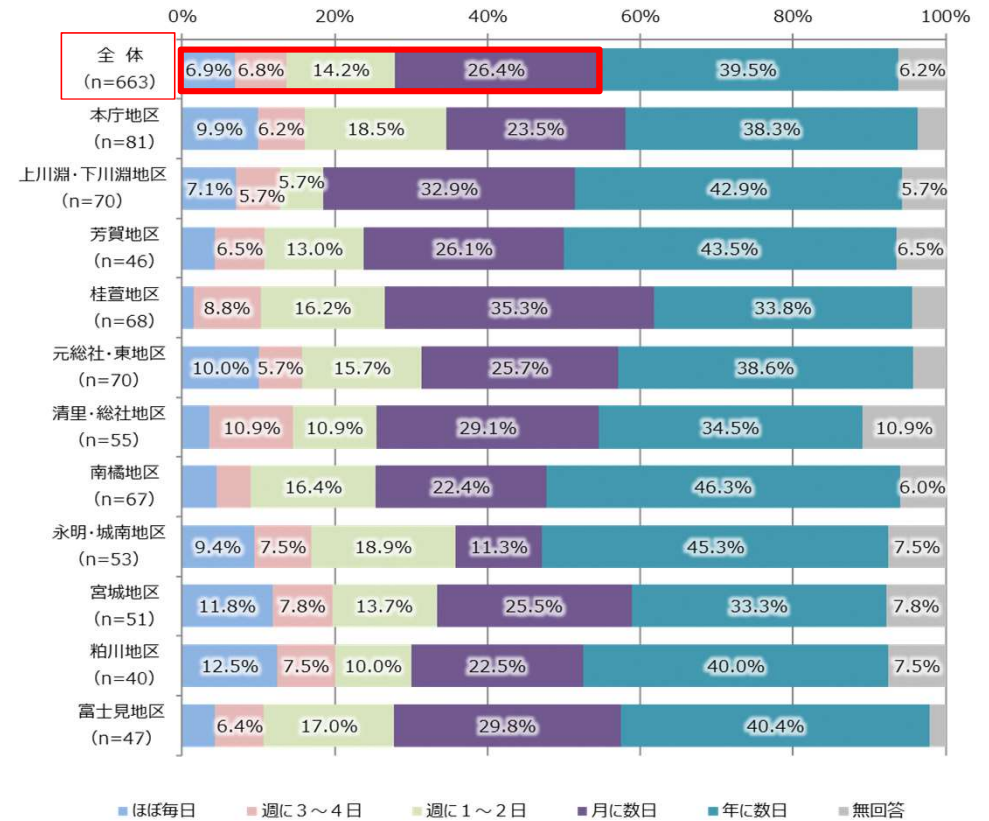


6. 路線バスの利用状況と求めるサービス水準

＜現状のバスの利用頻度（再掲）＞



＜前ページのサービス水準が改善された場合のバスの利用頻度＞

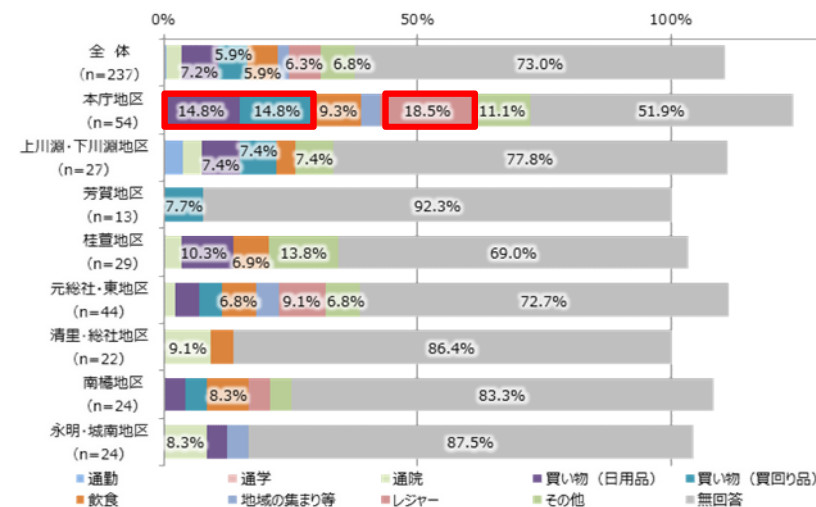
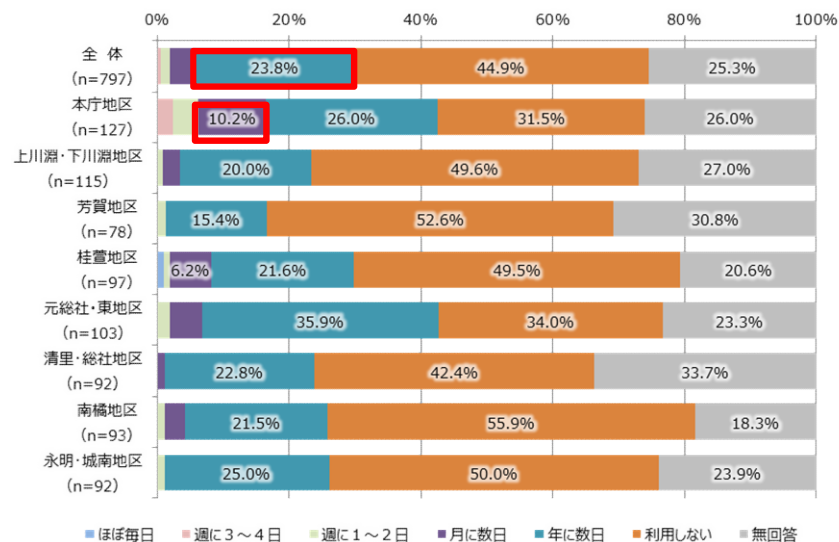


*** 水準が改善されても利用しないという方がこの他23.3%存在**

●市民が求めるサービス水準を確保することでバス利用者が増加する可能性がある。

5. 公共交通の利用状況

<マイバスの利用状況と利用目的>



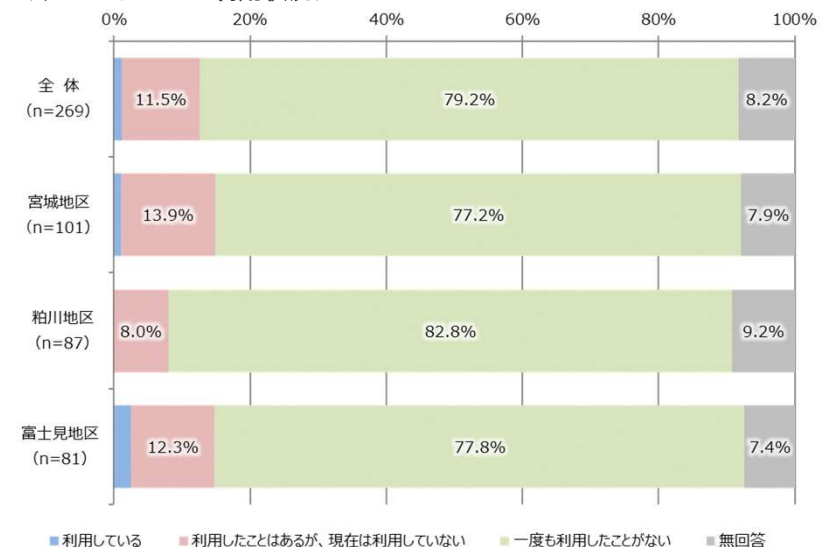
<マイバスの利用状況と利用目的>

- 年に数日程度の利用が23.8%となっている。
- 本庁地区の利用が多く、利用目的はレジャーが18.5%、買物（日用品や買回り品）が14.8%となっている。

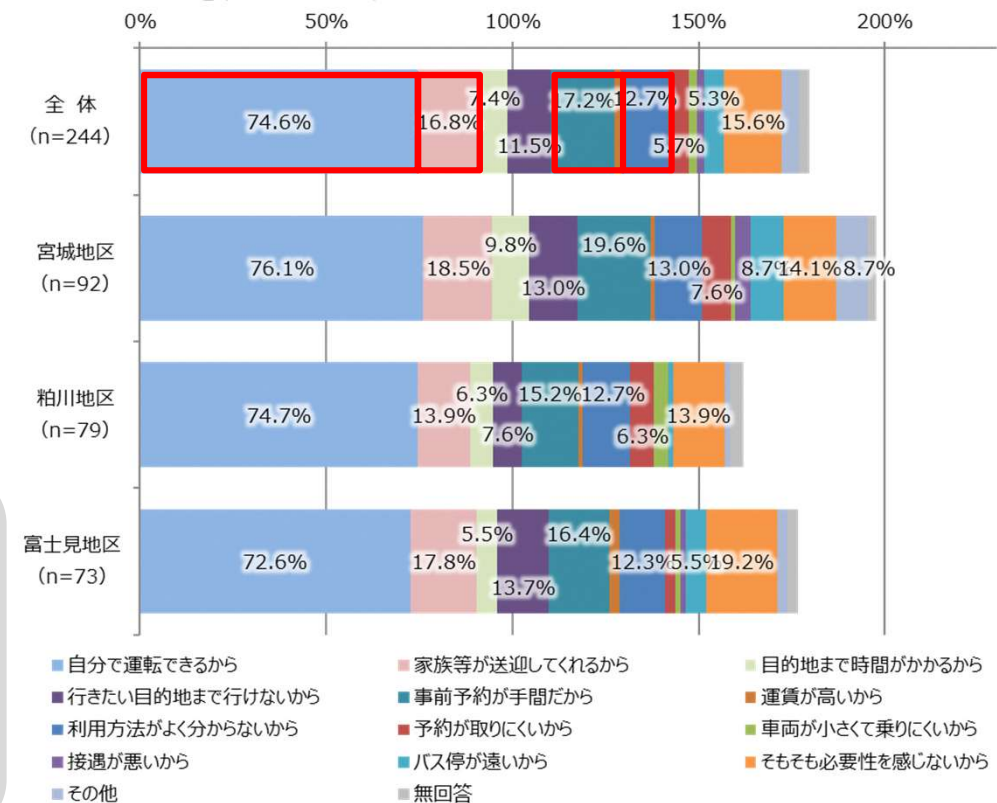
<デマンドバスの利用状況と利用目的>

- 利用状況は低い状況となっており、デマンドバスを利用しない理由としては、「自分で運転できるから」が74.6%、「家族等が送迎してくれるから」が16.8%となっている。
- また、「事前予約が手間だから」が17.2%、「利用方法がよく分からないから」が12.7%となっている。

<デマンドバスの利用状況>

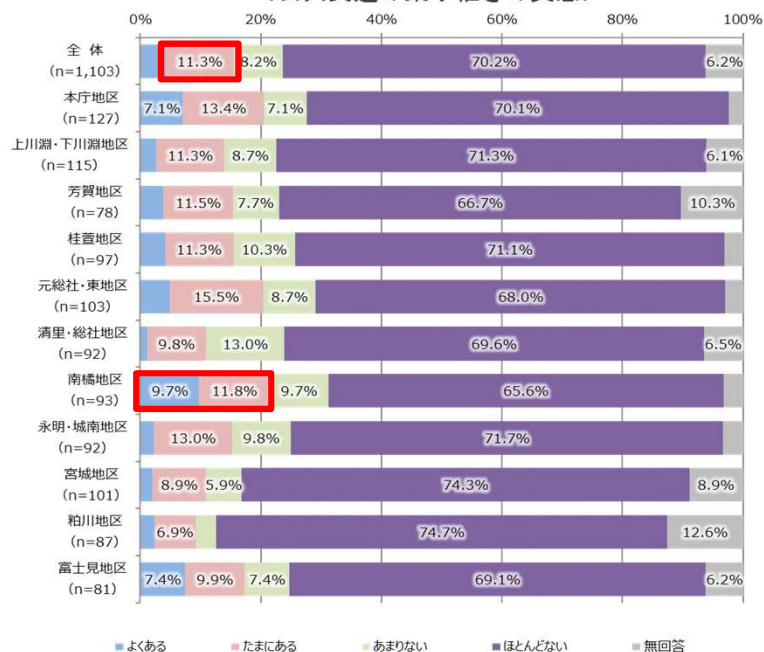


<デマンドバスを利用しない理由>

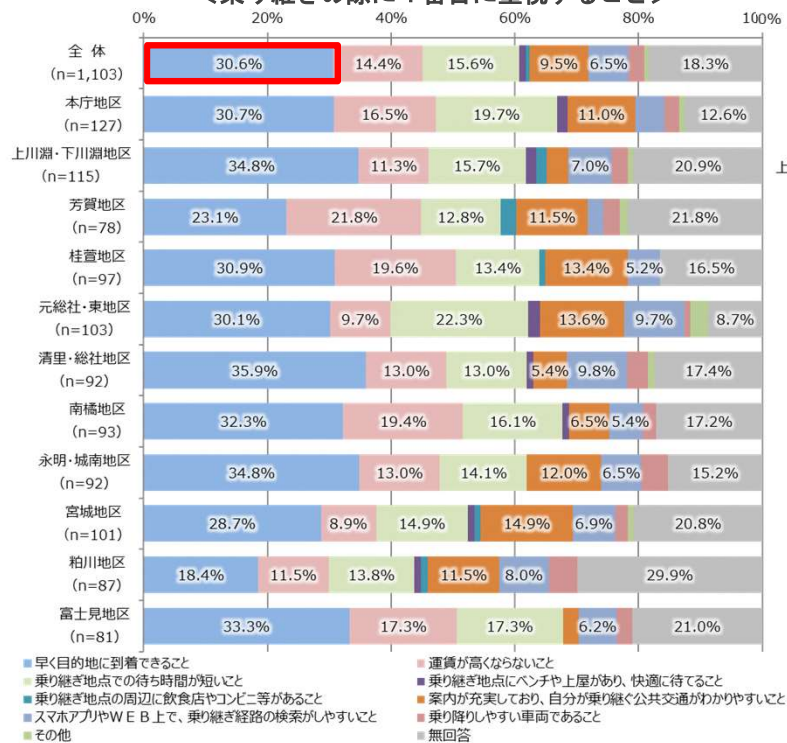


7. 公共交通全般

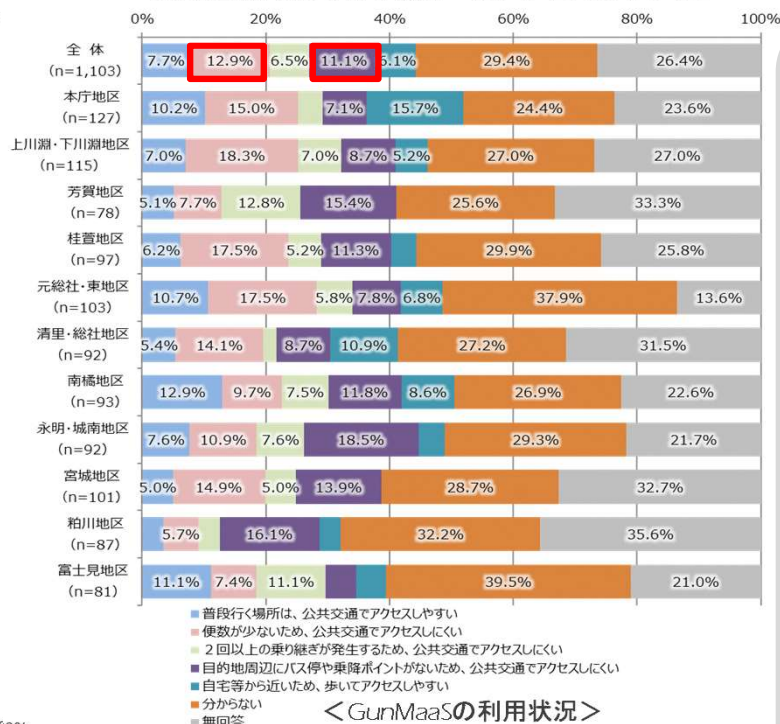
<公共交通の乗り継ぎの実態>



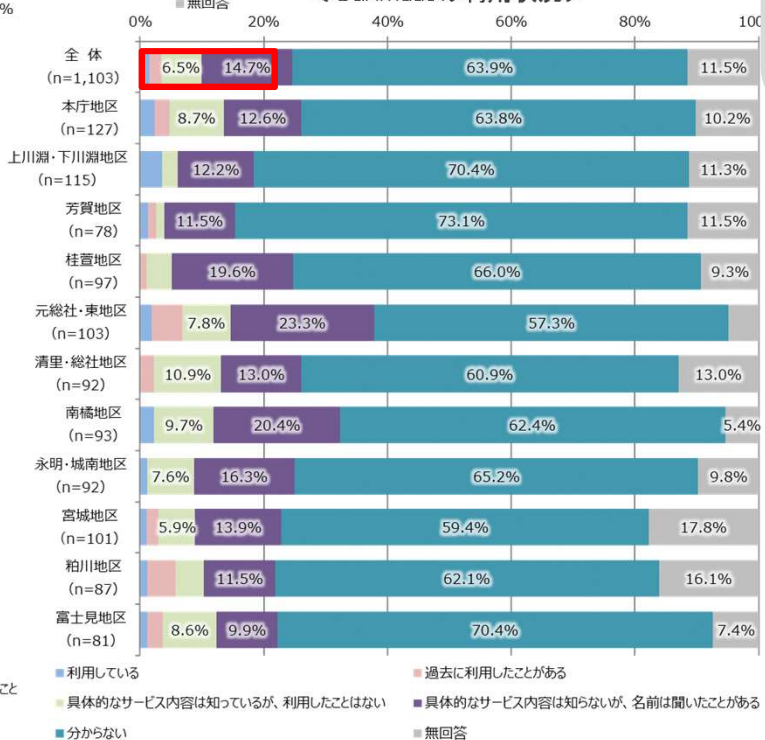
<乗り継ぎの際に1番目に重視すること>



<日常生活でよく行く場所へのアクセスしやすさ>



<GunMaaSの利用状況>



<公共交通の乗り継ぎの実態と重視すること>

- 乗り継ぎの利用者は全体で見ると、11.3%となっており、地区別にみると20%を超える地区も見られる。
- 乗り継ぎで重視することとして、「早く目的地に到着できること」があげられている。

<日常生活でよく行く場所へのアクセスしやすさ>

- 「便数が少ないため、公共交通でアクセスしにくい」や「目的地周辺にバス停や乗降ポイントがないため、公共交通でアクセスしにくい」との回答が10%以上となっている。

<GunMaaSの利用状況>

- サービス内容がわからない回答者が多い一方で、サービス内容を知っている回答者、名前は知っている回答者が20%以上となっている。